



埋文だより

第81号

令和 2年 3月16日発行



廣牧遺跡遠景（南西方向から）

たくさんの「打製石斧」は何を語る？

ひろまき

廣牧遺跡は鹿屋市吾平町麓にあり、始良川と大始良川に挟まれたシラス台地に立地する遺跡です。平成30年度から主要地方道鹿屋吾平佐多線（吾平道路）の建設に伴い、発掘調査が行われています。

縄文時代の終わりから弥生時代の初め頃（約2,500年前）の調査成果について紹介します。

きざめとつたいもん

調査区の一角に、遺物が集中して出土する場所があり、浅い掘り込みの中から刻目突帯文土器の破片と共に5点の打製石斧が重なった状態（集積遺構）で出土しました。これらは、石斧というよりも土掘り具と考えられる石器ですが、なぜ5点もそろえて埋めてあったのか、興味が持たれるところです。

この土掘り具と考えられる石器は、畑などを耕したり、地中にある食物を掘り上げる際の道具ではなかったかといわれており、この地域で農耕が営まれていた可能性を感じさせる遺物として注目されます。

目次

- ・たくさんの「打製石斧」は何を語る？…………… 1
- ・発見！発掘速報…………… 2・3
- ・クローズアップ発掘調査、普及・啓発…………… 4・5
- ・遺跡公開！現地説明会開催…………… 6

発見！発掘速報

昨年度、発掘調査が行われた、県立埋蔵文化財センターと（公財）埋蔵文化財調査センターの発掘調査、整理作業の成果の一部を紹介します。



…県立埋蔵文化財センターの発掘調査



…（公財）鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センターの発掘調査

低湿地に残された過去の姿

～中津野遺跡（南さつま市）～



低湿地の発掘



土器の出土状況

中津野遺跡は、金峰山の北西麓から延びる標高約 30m の中津野台地上と境川の氾濫により形成された沖積地に所在します。平成 18 ～ 21 ・ 25 ～ 29 年度に発掘調査を実施し、平成 24 ・ 25 ・ 30 ～ 令和元年度にかけて整理作業を実施しています。

現在は台地部分の報告書作成と低地・低湿地部分の整理作業を行っています。

低地・低湿地部分は縄文時代～中近世の遺跡で、特に縄

文時代後期（約 4,000 年前）の遺物が大量に出土し、弥生時代～近世の木製品類も多く出土しました。整理作業では大量に出土した縄文時代後期の土器の接合や復元作業を行い、遺物の図化作業の準備を進めています。接合・復元が進んだことで様々な文様があることがわかり、文様のバリエーションの豊富さに圧倒される遺跡です。



整理作業の様子

「志布志」に生きた先人たちの記録

～宇都上遺跡（志布志市）～

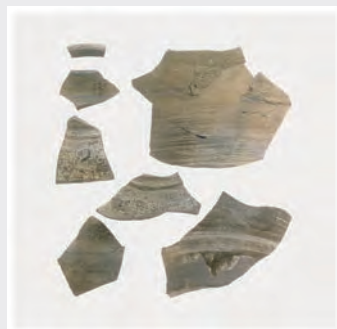


顔料が塗られた土器

宇都上遺跡の縄文時代早期前半の遺物の中から、内面が赤い縞状となっている土器がみつかりました。土器を焼く前に、赤い液体状のものを横方向に色付けしたとみられます。科学分析の結果、塗った原料は、鉄分を多く含む赤色顔料のベンガラと判明しました。この時期に赤色顔料を塗る例は少なく、縄文時代の人々の「想い」が伝わる例の一つとして注目されます。

また、大型の土坑の中から 15 世紀代のタイの壺もみつかりました。この時期におけるタイ産の陶磁器は沖縄で多く出土しており、近年、南九州でも出土する例がみられるようになりました。

これは、当時の商人たちが、志布志の港を舞台に広範囲を対象とした通商活動を行っていた証といえるでしょう。来港していた商人が、入荷したものと考えられます。



タイ産の壺

「河ロコレクション」から

～出水貝塚（出水市）～



発掘当時の様子（1954年）

故河口貞徳氏の収蔵品からなる「河ロコレクション」は、平成 24 年度から整理作業を行い、報告書刊行を進めています。今年度は 1953 年・1954 年に調査された『出水貝塚』の報告書を刊行します。



復元された土器

出水貝塚は縄文時代早期の押型文土器、縄文時代中期～後期の土器が層位的に出土し、当時はまだ充分でなかった土器の編年に大きな影響を与えました。また、今回の整理では、報告されていなかった土器や石器・貝製品をも取り上げて掲載し、現在の視点から価値付けを行うことにも取り組みました。

自然災害 (!?) と人々の暮らし

～山ノ段遺跡（出水市）～



自然礫の多い発掘現場

山ノ段遺跡は、出水市下鯖町平松上に所在し、南九州西回り自動車道の建設に伴って発掘調査が行われました。標高約 28m の緩傾斜地に位置し、近くには『延喜式』にも登場する薩摩二之宮の加紫久利神社があり、米ノ津地域の歴史を感じさせてくれる場所に所在します。掘り上げる土の中には大小多量の自然礫が混ざっており、発掘は力と根気のいる大変な作業となりました。苦労の甲斐あって、土器片や小さな石鏃、石皿や叩石などが見つかりました。中でも長さ約 18cm、重さは 404 g の石槍は、県内でも最大級の大きさで、製作技術や使用目的について大変興味深い発見となりました。



出土した石槍

生活の営みが垣間見える遺跡

～石鉢谷 A 遺跡（鹿屋市）～



石鉢谷 A 遺跡は、鹿屋市古里町にあり、鹿屋体育大学がすぐ近くににあります。標高は約 135m で、西には開聞岳が見えます。昨年度から続く調査で、本年度は 11 月から 1 月までの 3 か月間の発掘調査を実施しました。近くの谷に向かう傾斜面にあるため、転倒などに注意しながらの作業でした。縄文時代早期の集石遺構や石皿、古墳時代の土器などが出土しており、それぞれの時代の確かな足跡が窺えます。集石遺構の礫は、安山岩が約 8 割を占め、熱を受けた痕跡もありました。



集石遺構の調査



石皿の出土状況

クロースアップ！発掘調査 鹿児島城跡



～（鹿児島市）～



鹿児島（鶴丸）城跡では、3月の御楼門完成に向けて工事が進んでいます。この復元には、当センターで実施した発掘の成果が反映されています。特に、ほぼ完全な形で出土した鬼瓦は、大いに参考にされました。また、様々な時期や文様の瓦なども多数出土しており、鹿児島城の建物の移り変わりを知る上で貴重な資料となっています。それらの成果をまとめた報告書も3月に刊行されます。



地業・排水溝検出状況



石列検出状況



遺物出土

今年度の発掘調査では、納戸や長屋など、建物の基礎と考えられる遺構が確認でき、城の範囲を確認するための情報が得られました。これらの成果も今後、報告書にまとめられます。堂々たる御楼門を見ながら、一気に江戸時代に「タイムスリップ」してみたいはいかがでしょうか！

御楼門の復元，完成近し！

今回復元される御楼門は、消失した1873（明治6）年以降の復活となります。歴史をひもとき、屋根の最上部に飾られる鯨も当初は瓦の予定でしたが青銅製に変更され、鹿児島城のシンボルの一つとして見ることができます。復元工事も大詰めとなりました。堂々たる御楼門の完成を楽しみに待ちましょう！新しい御楼門をくぐる時のことを想像すると、ワクワクしますね！



復元状況

御楼門完成予定地

鯨の設置

普及・啓発活動

西南戦争を掘り，学ぶ事業（掘り）

笠取戦跡は、霧島市牧園町三体堂付近（標高296m）の尾根に位置しています。1877（明治10）年の7月に、



堡壘跡（断面）

薩軍が陣を構え、堡壘、塹壕を構築して官軍と激

しい戦いが行われました。当時の堡壘跡が、牧園や横川を中心に約300基確認されています。8月30日・31日には、西郷隆盛が牧園（踊）の官軍を突破できず、最後の決戦地である城山まで敗走することになった決定的な場所でもあります。当時地元では、薩軍敗退を「踊の一度敗れ」、8月を「踊の二度敗れ」と呼んで残念がったと言われています。調査地

点の堡壘は7基あり、大型（長さ10m・幅6m）の半円形堡壘が3基と、タコツボ形堡壘4基があります。官軍が攻めてきたと考えられる北側方面を守備しており、高台から下の道路を一望できます。当時、南下してくる官軍を監視・攻撃する様子が、イメージできる配置を現在でも確認することができます。牧園や横川の堡壘調査は、ほとんど行われていないため、今回の調査成果は貴重な情報となります。



笠取戦跡（上空より）



西南戦争を掘り，学ぶ事業（学ぶ）



西南戦争を掘り，学ぶ事業
（詳細はQRコードから）

当センターでは、「西南戦争を掘り，学ぶ」と題して、西南戦争を中心に地元の調査成果をもとにした授業支援を行っています。県内の小学校4校や中学校3校、高等学校2校、市町村の研修会1団体など、全8か所で開催し、計697名の受講がありました。

児童生徒の感想に、「学校の近くにも歴史が広がっていることが分かった」「昔の人の技術が、すごい」



小学校での授業支援



本物の土器に触れる

「土器は意外に薄いことを知った」等がありました。鹿児島県の歴史に触れ、特に「本物」の土器や石器に触れて、先人の営みを身近なものとして感じるとともに、郷土の歴史について深く学ぶ機会になりました。

埋蔵文化財 専門職員上級講座

当センターでは年間を通して、専門職員養成講座を開講していますが、今年度の上級講座は『埋蔵文化財の保護と活用』をテーマとして1月16日（木）・17日（金）の2日間にわたって実施しました。今回は、文化庁から文化財第二課埋蔵文化財部門の近江俊秀主任文化財調査官を講師としてお招きし、講座や県内の埋蔵文化財担当職員による事例発表を行いました。

参加者57名からは、「埋蔵文化財保護行政の現状と課題が明確になった」「災害復興支援について理解が深まった」「質問がすぐでき、他の市町村の取り組みや現状と課題を知ることができ参考になった」などの感想も寄せられました。今回の研修講座を振り返って、発掘現場や整理作業で生かしてもらえたらと考えています。



近江主任文化財調査官の講座



災害復興支援について

遺跡公開！ 現地説明会開催

久保田牧遺跡



主要地方道鹿屋吾平佐多線(吾平道路)の建設工事に伴う発掘調査が進められている久保田牧遺跡(鹿屋市)で、令和元年11月9日(土)に現地説明会を開催しました。当日は、天候にも恵まれ、113名の見学者が訪れました。



会場に5つの見学エリアを設け、担当職員が詳しく説明を行いました。

「土層断面」の前では、各時代・時期の遺物^{ほうがんそう}包含層(遺物が埋まっている層)や火山噴出物の堆積状況の説明を行いました。特に約6,400年前の池田カルデラ(現在の池田湖)と、約7,300年前の鬼界カルデラ(現在の硫黄島・竹島付近)の大噴火に関する噴出物がとても厚く堆積していることや、噴砂^{ふんさ}(地震で地盤が液状化した際に地盤の亀裂から砂が地下水と共に噴出する現象)の痕跡には、注目が集まっていました。

「中世と古代の掘立柱建物跡・中世の溝状遺構」のエリアでは、中世(約500年前)と古代(約1,000年前)の掘立柱建物跡の柱穴を各時代毎に色分けした線でつなぎ、建物の配置を示し



土層断面の説明



掘立柱建物跡



古墳時代竪穴住居跡群



古墳時代竪穴住居跡内

ました。柱穴の直径が約60cm程で、広さが50m²を超える大型の掘立柱建物跡があることや、墨書土器(文字や模様等が描かれた土器)が見つかることから、古代には、有力者の館や官衙(行政機関)のような地域の中心的な建物・施設が置かれていた可能性も紹介しました。

「古墳時代の竪穴住居跡群」のエリアでは、古墳時代(約1,500年前)の竪穴住居跡4軒が隣接して発見されたこと、その中の1軒は長軸が約10m程のとても大型の住居跡で、棒状礫や多くの高坏^{たかつき}が出土するなどの特徴があることを説明しました。

「縄文時代」のエリアでは、縄文時代中期(約5,000年前)の直径約1m、深さ約1.6m程の落とし穴と、縄文時代早期(約12,000～8,000年前)の集石遺構^{せきぞく}や石鏃・石斧等の出土遺物についての説明を行いました。

「出土遺物の展示コーナー」では、久保田牧遺跡の他に近隣の遺跡の出土遺物も展示されました。近隣とはいえ、遺跡によって時代や種類が異なる遺物が出土していました。職員にいろいろと質問したり、丁寧に



縄文時代中期の落とし穴



墨書土器

じっくりと
見学する姿
でにぎわい
ました。



展示室も盛況

当センターの見学は、土曜・日曜・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時～午後5時まで、入館料は無料です。

なお、当センターのホームページは、鹿児島県 (<https://www.pref.kagoshima.jp/>)

または、上野原縄文の森(<https://www.jomon-no-mori.jp/>)、QRコードからお入りください。

検索キーワード

上野原縄文の森

検索

クリック



埋文だより 第81号

発行日 令和2年3月16日
編集・発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4318 鹿児島県霧島市
国分上野原縄文の森2番1号
TEL 0995-48-5811・FAX 0995-48-5820
URL: <https://www.jomon-no-mori.jp>
E-mail: maibun@jomon-no-mori.jp